用字用語 新表記辞典

新訂三版

用字用語 新表記辞典

新訂三版

第一法規

編者紹介

天沼　寧（あまぬま・やすし）

大正3年，奈良県に生まれる。
早稲田大学文学部文学科卒業。文部省図書局国語課，文化庁文化部国語課を経て，大妻女子大学文学部教授。国文学専攻。
主著には，必携用字用語辞典（三省堂），手紙タブー集（ごま書房），言葉の言い方書き方（ぎょうせい）現代実用文例事典（第一法規）がある。

加藤彰彦（かとう・あきひこ）

昭和3年，東京都に生まれる。
東京大学文学部国文学科卒業。文部事務官，千葉大学留学生部助教授，教科書調査官を経て，現在，実践女子短期大学教授。
国語学，日本語教育専攻。

用字用語新表記辞典　新訂三版

定価 1300円
（本体1262円）

昭和56年12月1日　新訂初版
昭和61年12月20日　新訂二版
平成3年6月25日　新訂三版2刷

＜検印省略＞©

編者　天沼寧
　　加藤彰彦
発行者　田中富彌
発行所　第一法規出版株式会社
107 東京都港区南青山2－11－17
電話3404-2251 振替東京3-133197

ISBN4-474-07099-2　C0581 P1300E (5)

新訂三版の刊行に当たって

戦後間もなく実施に移された「当用漢字表」・「現代かなづかい」は，昭和21年11月に内閣告示をもって制定されたものです。それ以降引き続いて，国語の書き表し方に関する諸基準が同じく内閣告示をもって定められ，これらはいずれも社会の各方面で実施されてきました。しかしながら，これらの諸基準は，時代の推移につれて，幾分か不具合な点を生じ，社会の各方面から批判が出てきました。

この事態に対し，文部大臣は，昭和41年６月13日付けで，国語審議会に「国語施策の改善の具体策について」を諮問しました。これにこたえて国語審議会は，それまでの各国語施策の見直しを行い，昭和47年から昭和61年にかけて，順次，答申をしてきました。これを受けて，その都度，国語の書き表し方の目安・よりどころとしての新しい基準が内閣告示をもって定められ，同時にそれまでの施策が廃止されました。

これに応じて，この辞典でも，内容に全面的改訂を施し「新訂二版」として，昭和61年に刊行いたしました。

その後，今日に至るまでに，主なものとして，法令における拗音・促音の小書きの実施，「小学校学習指導要領」の全部改正に伴う学習漢字の字種の増加・学年配当の改定，戸籍法施行規則の一部改正――本書関係では「人名用漢字別表」の改正――などがありました。これにそって，本書でも付録の内容を改める必要が生じたのを機会に，本文の見出し・用例，その他についても，可能なかぎり全面的に見直しを行い，ここに「新訂三版」として刊行することにいたしました。

平成２年10月

天沼　寧

加藤　彰彦

編集に当たって

このたび，昭和56年10月1日付けで，「常用漢字表」が内閣告示となりました。これに伴って，これまで国語を書き表すときの基準であった「当用漢字表」・「当用漢字音訓表」・「当用漢字字体表」をはじめ，「当用漢字別表」・「人名用漢字別表」・「人名用漢字追加表」が廃止になりました。

「常用漢字表」は，その「前書き」にもあるように，「法令，公用文書，新聞，雑誌，放送など，一般の社会生活において，現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すもの」です。この「漢字使用の目安を示すもの」というのが，「当用漢字表」の「使用する漢字の範囲を示したもの」というのと，大きく違っているところであるということです。もっとも，この「目安」ということは，どういうことであるのか，ある数の漢字を掲げた表というものの性質からみて，はっきりしないところもあり，人によって，その解釈が必ずしも一定しない面もあるようです。

これについては，やはり「前書き」で，「この表の運用に当たつては，個々の事情に応じて適切な考慮を加える余地のあるものである。」と言い，また，国語審議会は，このことについて，答申の前文で，「しかし，一般の社会生活において，相互の伝達や理解を円滑にするためには，できるだけこの表に従った漢字使用が期待される。」と言っています。また，「目安」の趣旨を補足して，「・・・，この表を無視してほしいままに漢字を使用してもよいというのではなく，この表を努力目標として尊重することが期待されるものであ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

ること。」，「・・・，この表を基に，実情に応じて独自の漢字使用の取決めをそれぞれ作成するなど，分野によってこの表の扱い方に差を生ずることを妨げないものであること。」と言っています。

このように，今回の施策は，かつての国語施策が，いわゆる正書法的な方向を打ち出していたと思われるのに比べて，大きく方向を変え，画一的・統一的な表記というよりも，書き手の判断によって，適宜，取捨選択して用いるのが望ましいと考えているように思われます。

したがって，この趣旨からすれば，この施策に基づいた用字用語の手引きや辞典は不要であり，書き手は，銘々，「常用漢字表」を努力目標として頭におきながら国語を書き表せばよいということも言えます。しかしながら，さきに引用したように，国語審議会としては，「一般の社会生活において，相互の伝達や理解を円滑にするためには，できるだけこの表に従った漢字使用が期待される。」と言っています。すなわち，「目安」ということは，漢字の使用を，決して，いわゆる野放しにするという趣旨ではないと思われます。

目安であるということは，これまでの施策に比べて，書き表し方の幅が大きくなり，書き手の自由度が増したことになると同時に，書き手としては，絶えず判断を加えながら書いていかなければならないことになり，時と場合によっては，どう書いたらよいのか判断がつきかねる場合も生じるかもしれません。そこで私たちは，国語施策に基づいて書こうとする場合の参考・目安としての書き表し方の手引きを目標にこの辞典を編むこともあながち無用のことではないと考えて企画したものです。

この辞典は，国語を書き表すに際して，漢字の使用については，

「常用漢字表」の趣旨・性格を十分に踏まえ，仮名遣いについては，内閣告示の「現代かなづかい」に準拠し，また，送り仮名については，同じく「送り仮名の付け方」をよりどころとすれば，このように書き表すことができるであろうということを目安として掲げたものであります。このようにこの辞典が掲げている書き表し方は，一応の目安ですから，書き手が施策の趣旨・性格の範囲内で，取捨選択を加えることは全く自由であるわけです。

この辞典は，去る昭和48年８月，『用字用語新表記辞典』として出版したものを引き継いではおりますが，今回の「常用漢字表」が内閣告示となって実施されることになったのを機会に，新たに編集し直したものであります。編集に当たった天沼・加藤の両名は，旧版の編集にも携わっていたもので，今回もまた編集に当たりました。

本書が，御利用をいただく方々の座右の書となり，豊かな言語生活の一助として，いささかでもお役に立つことになれば，この上もない幸せです。

昭和56年10月

天沼　寧
加藤彰彦

この辞典の使い方

この辞典は，次に掲げる諸基準によって，現代国語を書き表そうとする場合の目安・よりどころとなるものである。

1　常用漢字表　　（昭和56.10.1　内閣告示第一号）
2　現代仮名遣い　　（昭和61. 7.1　内閣告示第一号）
3　送り仮名の付け方（昭和48.6.18　内閣告示第二号）

これらの諸基準に基づいて，語を書き表す場合，幾とおりかの書き表し方が可能であるものは，たくさんある。

常用漢字表　漢字とその音訓の使い方は，「常用漢字表」の「前書き」で，「この表の運用に当たつては，個々の事情に応じて適切な考慮を加える余地のあるものである。」としているから，ある分野，ある方面で，事情に応じて，適切な考慮を加えたうえで，この表に掲げてない漢字を使うことも差し支えないし，この表に掲げてある漢字を，この表に掲げてない音訓で使うことも，同様な意味で差し支えないわけである。

現代仮名遣い　「現代仮名遣い」では，「じ・ぢ」，「ず・づ」の使い方に関して，一部の語，例えば「せかいじゅう」，「いなずま」については，〈現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として，それぞれ「じ」「ず」を用いて書くことを本則とし，「せかいぢゅう」「いなづま」のように「ぢ」「づ」を用いて書くこともできるものとする。〉として，いわば許容を設けている。

送り仮名の付け方　「送り仮名の付け方」では，「通則７」を除く各通則に「許容」が設けてあり，しかも「前書き」で，「各通則において，送り仮名の付け方が許容によることのできる語については，本則又は許容のいずれに従ってもよいが，個々の語に適用するに当たって，許容に従ってよいかどうか判断し難い場合には，本則によるものとする。」とある。

上に述べた事柄を個々の語に適用して，その具体的な書き表し方のすべてを掲げることにすると，各分野・各方面で，また，各個人で，それぞれの好みの書き表し方を選択することができ，一見便利なようではあるが，一面，ページ数の非常な増大をきたし，煩わしく，しかも結局，どれに従ってよいか判断がつきかねるものが多くなってくるようにもなる。

そこで，この辞典は，漢字，及び，その音訓の使い方については，できるだけ常用漢字表に忠実に従うものとした。しかし，全く機械的ということではなく，国語施策に準ずると思われる公用文・法令関係の諸通知や，国語審議会のいろいろの報告，漢字部会の参考資料，新聞用語集，国語辞典等を参照し，また，社会一般にほぼ定着していると思われる書き表し方をも考慮して一語一語の具体的な書き表し方を掲げることに努めた。

この辞典では，１語について，原則として，一つの書き表し方を掲げることとしたのであるが，中には，二とおりの漢字による書き表し方（漢字・仮名交じりを含む。），漢字書きと仮名書きとの二とおりの書き表し方を掲げたものがあるのは，以上のことを考慮したからである。

仮名遣いに関しては，すべて本則による書き表し方を示し，「……書くこともできるものとする。」を適用した書き表し方は掲げなかった。

送り仮名については，原則として，内閣告示の「通則１」から「通則６」までの，各本則・各例外，「通則７」，及び，「付表の語（ただし，なお書きを除く。）」のどれか一つを，それぞれの語に応じて適用した書き表し方を一つ掲げることにした。これは，公用文等でも，新聞でも，学校教育でも，原則としてそのようにしているからである。ただし，公用文等では，巻末に載せた付録でも分かるように，送り仮名の付け方について特別の処置・取り扱いをしているので，該当する語については，内閣告示の本則等による送り方と公用文・法令における送り方の二とおりを掲げておいた。

これ以外の語についても，内閣告示の「送り仮名の付け方」の許容を適用して，送り仮名（の一部）を省くことのできるものもたくさんあるが，許容による形はすべて省いてある。

通則７を適用する語については，なるべく内輪に，控えめにし，主として告示に掲げてある語を中心に考えた。

なお，この辞典において，ある語の書き表し方が，漢字（漢字・仮名交じりを含む。）で掲げてあっても，書き手の判断で，仮名書きにすることは，少しも差し支えない。

以上のような方針で，この辞典は，初めに掲げた三つの施策を適用した場合の語の書き表し方を掲げたものであるが，ここに掲げた書き表し方が，唯一の書き表し方であるというわけではない。

見出しはアンチック体，現代仮名遣い，五十音順で掲げ，次の太字体（ゴシック体）は，３施策を適用した目安・よりどころとしての書き表し方であ

る。なお，語頭に「㊟」を付けたものは，公用文・法令における書き表し方である。

太字体で掲げた書き表し方に続いて，〈　〉に包んで示したものは，常用漢字表にない漢字，又は，常用漢字表に掲げていない音訓を使った書き表し方であり，それぞれ該当する漢字の上に「×」「△」の印を付けて参考までに掲げたものであり，もとより，そのすべてを尽くしていない。この〈　〉内では，送り仮名，及び，仮名書きの部分は省略してある。

次に，これまでの伝統的な書き表し方が，表外の字，表外の音訓であるような語については，世間でかなり使われていると思われる言い換え（その語の意味の一部であるものもある。）や，同義・類義の語などを「㊀」の印のあとに便宜掲げた。この際，『学術用語集』の各編・報道関係の用字用語集などに掲げてあるものも適宜採り入れてある。

「㊉」は，見出し語ごとに，その（一部の）用例を掲げたものである。

必要に応じて適宜「■」を添えた。

異字同訓については，国語審議会漢字部会の参考資料「『異字同訓』の漢字の用法」に掲げてあるものを，それぞれの語の該当する箇所に分けて［　］内に掲げた。この参考資料には，次のような前書きがある。（この参考資料は，内閣告示には含まれていない。）

1　この表は，同音で意味の近い語が，漢字で書かれる場合，その慣用上の使い分けの大体を，用例で示したものである。

2　その意味を表すのに，二つ以上の漢字のどちらを使うかが一定せず，どちらを用いてもよい場合がある。又，一方の漢字が広く一般的に用いられるのに対して，他方の漢字はある限られた範囲にしか使われないものもある。

3　その意味を表すのに，適切な漢字のない場合，又は漢字で書くことが適切でない場合がある。このときは，当然仮名で書くことになる。

教育漢字の右肩に添えたアラビア数字は，「小学校学習指導要領」の学年別漢字配当表に掲げてあるその漢字の配当学年を示しています。なお，これは平成元年度・文部省告示「小学校学習指導要領」によるもので，平成4年度から完全実施となるものです。

巻末には各種の内閣告示等をはじめ，国語を書き表す上でのいろいろの参考となると思われる資料を付録として添えた。

目　　次

◆ 新訂第三版の刊行に当たって
◆ 編集に当たって
◆ 本書の使い方
◆ **本　　文** …… 1
◆ **付　　録** …… 635
1　常用漢字表 …… 637
2　現代仮名遣い …… 644
3　送り仮名の付け方 …… 656
4　公用文における漢字使用等 …… 665
5　「公用文における漢字使用等について」の具体的な取扱い方針 …… 669
6　法令における漢字使用等 …… 670
7　人名用の漢字 …… 676
8　ローマ字のつづり方 …… 680
9　教育漢字（学年別漢字配当表） …… 683
10　教育漢字の筆順 …… 686
11　学習指導要領の一部改正 …… 709
12　学校教育における「現代仮名遣い」の取扱いについて …… 711
13　学校教育における「送り仮名の付け方」について …… 713
14　国語審議会答申「常用漢字表」　前文 …… 715
15　国語審議会答申「改定現代仮名遣い」　前文 …… 721
16　国語審議会答申「改定送り仮名の付け方」　前文 …… 725
17　法令における拗（よう）音及び促音に用いる「や・ゆ・よ・つ」の表記について …… 728

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

◆ 新訂第三版の刊行に当たって
◆ 編集に当たって
◆ 本書の使い方
◆ **本　　文** …… 1
◆ **付　　録** …… 635
1　常用漢字表 …… 637
2　現代仮名遣い …… 644
3　送り仮名の付け方 …… 656
4　公用文における漢字使用等 …… 665
5　「公用文における漢字使用等について」の具体的な取扱い方針 …… 669
6　法令における漢字使用等 …… 670
7　人名用の漢字 …… 676
8　ローマ字のつづり方 …… 680
9　教育漢字（学年別漢字配当表） …… 683
10　教育漢字の筆順 …… 686
11　学習指導要領の一部改正 …… 709
12　学校教育における「現代仮名遣い」の取扱いについて …… 711
13　学校教育における「送り仮名の付け方」について …… 713
14　国語審議会答申「常用漢字表」　前文 …… 715
15　国語審議会答申「改定現代仮名遣い」　前文 …… 721
16　国語審議会答申「改定送り仮名の付け方」　前文 …… 725
17　法令における拗（よう）音及び促音に用いる「や・ゆ・よ・つ」の表記について …… 728

あ

あ　亜(亞)〔ア〕　例亜流，亜鉛，亜寒帯，亜熱帯，亜硫酸

ああ　ああ〈嗚呼．噫〉　例～悲しい。

あい　哀〔アイ あわれ・あわれむ〕　例哀感，哀愁，哀願，哀悼，悲哀

あい　愛4〔アイ〕　例愛情，愛惜，親愛，愛する人，母の愛

あい　相　例～戒める。～対する。

あい　あい〈藍〉　例～色の着物。

あいあいがさ　相合い傘　例～の二人連れが楽しそうに行く。

あいうち　相打ち　例剣道の試合で両者～となった。

あいうち　相撃ち　例ピストルで撃ち合ったが～となった。

あいうち　相討ち　例力を尽くして戦ったが結局～となった。

あいおーばー　合いオーバー

あいかぎ　合いかぎ〈合鍵〉

あいかわらず　相変わらず
例～忙しい。～元気でいます。

あいかん　哀歓　例～を共にする。

あいがん　哀願　例今度だけは見逃してくれと～する。

あいがん　愛がん〈愛玩〉

あいぎ　合着〈間着〉

あいきょう　愛きょう〈愛敬・愛嬌〉
例～を振りまく。～のない人。

あいくち　あいくち〈七首〉　㊀短刀
例～を突き付けて脅かす。

あいくるしい　愛くるしい
例～目をしたお嬢さん。

あいけん　愛犬　例～を連れて…。

あいことなる　相異なる　例互いに～考えを持っている。

あいことば　合い言葉

あいさつ　あいさつ〈挨拶〉　例会長の～。丁寧に～する。

あいじゃく　愛着　例～を感じる。
参「あいちゃく」とも。

あいしゅう　哀愁　例～を帯びた歌声。～の感が漂う。

あいしょう　相性〈合性〉　例～がよい人と結婚する。

あいしょう　愛唱〈愛誦〉　例若者たちに～されている歌。

あいじょう　愛情　例両親の～にはぐくまれてすくすくと育つ。

あいじょう　愛嬢　例A氏の～。

あいじるし　合い印〈合標〉

あいず　合図　例手を挙げて～をする。先生の～で立ち上がる。

あいする　愛する　例動物を～心。

あいせき　相席〈合席〉　例御～でよろしければ，どうぞ。

あいせき　哀惜　例A君の死は全く～の念に堪えない次第だ。

あいそ　愛想　例もう少し～のいい返事はできないものかねえ。～もこそも尽き果てる。

あいそう　愛想　例何のお～もあ

りませんで失礼しました。

あいそづかし　愛想尽かし　例そんな～を言うと，嫌われるよ。

あいだ　間　例休みの～に原稿を書く。AとBとの～にある点。

あいたいずく　相対ずく〈相対尽〉　例これは～で決めたことだ。

あいたいする　相対する　例～勢力。相対して座に着く。

あいだがら　間柄　例親しい～。

あいだぐい　間食い　例むやみに～をするのは健康によくない。

あいちゃく　愛着　例～を感じる。　園「あいじゃく」とも。

あいつ　あいつ〈彼奴〉　例～は，本当にひどいやつだ。

あいついで　相次いで　例今年の前半は，大事故が～発生した。

あいづち　相づち〈相槌〉　例「うん，うん」と～を打つ。

あいて　相手〈対手〉　例～になる。～を負かす。話し～。

あいてかた　相手方　例～の出方を待って話を進める。

あいとう　哀悼　例謹んで～の意を表します。

あいどく　愛読　例小説を～する。

あいともなう　相伴う　例Bさん夫婦は相伴って旅行に出発した。

あいにく　あいにく〈生憎〉　例～品切れです。お～さま。

あいのこ　合いの子〈間子〉　㊀混血児　例ヒョウとライオンの～。

あいのて　合いの手〈間手〉　例盛んに～を入れながら話を聞く。

あいびき　あいびき〈逢引・媾曳〉

あいぶ　愛ぶ〈愛撫〉　㊀かわいがること　例猫を～しながら話す。

あいふく　合服〈間服〉

あいぼう　相棒　例～と一緒に釣りに行く。

あいま　合間　例仕事の～。

あいまい　あいまい〈曖昧〉　㊀不確実　例そんな～な返事では駄目だ。すこぶる～だ。

あいまって　相まって〈相俟〉　例周到な準備と豊富な資金とが～この難事業は成功した。

あいみたがい　相身互い〈相見互〉

あいやど　相宿　例偶然～となる。

あいよく　愛欲〈愛慾〉　例～におぼれて身を滅ぼす。

あいらしい　愛らしい　例～お嬢さん。あの子のしぐさが～。

あいろ　あいろ〈隘路〉　㊀支障・困難・障害・難関　例資金の調達が，唯一の～である。

あう　合う　例計算がぴったりと～。彼とは気が～。

あう　会う〈逢〉　例3時に東京駅で人に～約束がある。

あう　遭う　例不測の事故に～。

あえぐ　あえぐ〈喘〉　例暑さに～。

あえて　あえて〈敢〉　例～言う必

要もないだろう。〜行う。

あえない　あえない〈敢無〉 ㊀はかない・あっけない ㊇奮闘むなしく，〜最期を遂げた。

あえる　あえる〈和〉 ㊇ごまで〜。野菜を酢みそであえた料理。

あえん　亜鉛 ㊇〜でめっきした鉄板をトタン板と言う。

あお　青 ㊇横断は，信号が〜になってから。〜白い。薄〜。

あおあお　青々 ㊇〜とした麦畑の中の小道をたどる。

あおい　青い ㊇〜顔をした人。

あおい　あおい〈葵〉 ㊇〜の紋。

あおぎみる　仰ぎ見る ㊇中天に懸かる月を〜。山の頂上を〜。

あおぐ　仰ぐ ㊇判断を〜。空を〜。師と〜に足る人。

あおぐ　あおぐ〈扇〉 ㊇扇子で〜。

あおくさい　青臭い ㊇〜におい。まだ若いから，いくらか〜ところがあるのは致し方がない。

あおさ　青さ ㊇目の覚めるような空の〜。〜が少し足りない。

あおざめる　青ざめる〈蒼〉 ㊇見とがめられて顔色が〜。

あおじろい　青白い ㊇中天に懸かる月の光が〜。〜顔色の男。

あおにさい　青二才 ㊇〜のくせに，生意気なことを言うな。

あおのり　青のり〈青海苔〉

あおみ　青み〈青味〉 ㊇もう少し〜を加えればよい。

あおむく　あおむく〈仰向〉 ㊇照明を少しあおむきかげんにする。

あおむける　あおむける〈仰向〉 ㊇カメラをもっとあおむけないと，山の頂上まで入らない。

あおやぎ　青やぎ〈青柳〉 ㊇〜の酢みそあえ。

あおり　あおり〈煽〉 ㊇ドルショックの〜をくって倒産した。

あおる　あおる〈呷〉 ㊇ビールをぐいぐいと〜ように飲む。

あおる　あおる〈煽〉 ㊇人気を〜。風にあおられる。

あか　赤 ㊇信号が〜になった。〜の他人。〜紫色。薄〜。

あか　あか〈垢〉 ㊇〜だらけの体。こすると驚くほどの〜が出る。

あかあか　赤々 ㊇沈む夕日が〜としている。

あかあか　あかあか〈明々〉 ㊇街の明かりが〜と見える。

「異字同訓」の使い分け（漢字部会）

あう

合う……計算が合う。目が合う。服が体に合う。好みに合う。
割に合わない仕事。駅で落ち合う。

会う……客と会う時刻。人に会いに行く。

遭う……災難に遭う。にわか雨に遭う。

あかい　赤い　例～色。夕焼けが～。西の空が赤くなっている。

あかがね　あかがね〈銅〉　⊖銅(ど)　例～のやかん。～色に輝く。

あがき　あがき〈足掻〉　例この期に及んで悪～をするな。

あかぎれ　あかぎれ〈皹〉　例～だらけの手。随分ひどい～だね。

あがく　あがく〈足掻〉　⊖じたばたする・もがく　例あがけば～ほど深みにはまり込む。

あかぐみ　赤組　例～の勝ち。～と白組に分かれて戦う。

あかご　赤子　例かわいい～。

あかし　あかし〈証〉　⊖証拠・証明　例身の～を立てるのが難しい。

あかじ　赤字　例今月もまた～だ。訂正は～で願います。

あかしくらす　明かし暮らす　例毎日毎日を泣きの涙で～。

あかして　飽かして　例金に～書画骨とうを買う。

あかじみる　あか染みる〈垢染〉

あかしんごう　赤信号　例～では必ず止まれ。会の財政は，そろそろ～になってきた。

あかす　明かす　例まんじりともせず，一夜を～。種を～。

あかつき　暁　例もう～も近い。この事業が成功の～には……。

あがなう　あがなう〈購・贖〉　⊖買う・買い求める　例大枚をはたいてようやく一本を～ことができた。罪を～。

あかぬけ　あか抜け〈垢抜〉　例～したネクタイ。隣のお嬢さんはいつも～した装いをしている。

あかみ　赤身　例～の肉。

あかみ　赤み〈赤味〉　例ほおに幾分～がさしてきたようだ。

あかみがかる　赤みがかる〈赤味掛〉　例少し赤みがかった紅葉の葉。

あがめる　あがめる〈崇〉　例師と～。神を～。

あからさま　あからさま〈明白〉　例～に言えば，随分下手だ。

あからむ　赤らむ　例顔が～。

あからむ　明らむ　例空が～。

あからめる　赤らめる　例顔を～。

あかり　明かり〈灯〉　例～をつけてください。～を消す。

あがり　上がり　例すごろくの～。物価の～下がり。

あがりぐち　上がり口　例2階への～に大きな荷物が置いてある。

あがる　上がる　例値段が～。雨が～。早く召し上がれ。

あがる　挙がる　例犯人が～。

あがる　揚がる　例名声が～。日の丸の旗が揚がっている。

あかるい　明るい　例～部屋。空が～。～性格の人。

あかるさ　明るさ　例電灯の～が足りない。表情に～がある。

あかるみ　明るみ　例ようやく東の空に～がさしてきた。隠していた事件が～に出る。

あかるむ　明るむ　例東の空がほんのりと～。

あかわく　赤枠　例～で囲む。

あかんぼう　赤ん坊　例～を抱いた女の子。私の～の時の写真。

あき　秋　例女心と～の空。

あき　明き〈開〉　例この服は胸の～が大きすぎる。前～のシャツ。

あき　空き　例～缶を捨てる。なにぶん時間に～がありません。

あき　開き　例窓の～が少ないので風の通りが悪い。

あき　飽き〈厭〉　例このネクタイにも，もう～がきた。

あきかん　空き缶　例～の回収。

あきさめ　秋雨　例～前線。

あきす　空き巣　例～に入られた。～がねらっている。

あきすねらい　空き巣ねらい〈空巣狙〉　例～に入られた。

あきたりない　飽き足りない〈慊〉　例まだまだ～点が多いが，仕方がないでしょう。

あきち　空き地　例～を貸す。

あきない　商い　例今日は思ったより～が少なかった。朝～。

あきなう　商う　例小間物を～店。

あきばこ　空き箱　例お菓子の～。

あきばれ　秋晴れ　例先週の運動会の日は，すばらしい～だった。

あきびより　秋日和　例旅行中は，3日間，幸い～に恵まれた。

あきびん　空き瓶　例～の回収。

あきま　空き間〈明間〉　例～をがらくた置き場にする。

あきまつり　秋祭り　例村の～。

あきや　空き家〈明家〉　例数日～だったがすぐ借り手がついた。

あきらか　明らか　例そのことは既に～なことだ。～に君が悪い。

あきらめる　あきらめる〈諦〉　例今度は～より仕方がない。

あきる　飽きる〈厭〉　例遊びに～。

あきれかえる　あきれ返る〈呆返〉　例全く～ほど愚かなやつだ。

あきれすけん　アキレスけん〈腱〉

あきれはてる　あきれ果てる〈呆果〉

「異字同訓」の使い分け（漢字部会）

あがる・あげる

上がる・上げる……地位が上がる。物価が上がる。腕前を上げる。お祝いの品物を上げる。

揚がる・揚げる……花火が揚がる。歓声が揚がる。たこを揚げる。船荷を揚げる。てんぷらを揚げる。

挙げる……例を挙げる。全力を挙げる。国を挙げて。犯人を挙げる。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com